

京都市百井青少年村のあり方検討会議の報告書について

昭和47年に開設した「京都市百井青少年村（以下、「百井青少年村」という。）」については、施設の老朽化などの課題を踏まえ、施設全体のあり方について検討、議論を深めていくため、学識経験者、青少年育成団体、地元関係者等で組織する「京都市百井青少年村のあり方検討会議（以下、「検討会議」という。）」を令和2年4月に設置し、この度、全4回にわたる会議や地元及び利用者の意見を聴取するためのワークショップを通じた検討の成果を取りまとめていただき、検討会議から本市に対して報告書が提出されましたので、御報告いたします。

1 百井青少年村の施設概要

(1) 施設概要

- ・所在地 京都市左京区大原百井町356番地
- ・用地面積 13,740.74㎡
- ・主要施設

名称	延床面積	建築年月
山の家（木造1階建）	152.37㎡	昭和47年6月
ロッジ棟（A・B）（木造2階建）	125.86㎡	昭和55年7月
管理棟（鉄骨造1階建）	72.5㎡	昭和57年3月
交流センター（鉄筋コンクリート造1階建）	277.84㎡	平成13年3月

※ 山の家及びロッジ棟については、老朽化が著しく、令和2年4月以降、使用を停止している。

※ 交流センター設置後は、同センターに管理機能を集約したため、それ以降、管理棟については倉庫として活用されてきた。

- ・付帯設備 テントサイト：5箇所
 野外炊事場：2箇所（洗い場、調理台、かまど）
 営火場：3箇所（キャンプファイヤー）
 トイレ：1箇所（浄化槽）
 交流センター内：トイレ1（浄化槽）、シャワー男女別各1、ロビー、事務室

(2) 事業内容

- ア 野外活動のための施設の提供
- イ 野外活動に関する指導及び助言
- ウ ア及びイに掲げるもののほか、市長が必要と認める事業

(3) 施設の運営

- ・昭和47年の開設当初は非常勤嘱託員1名により運営し、昭和55年から夏期期間のみ民間団体に運営を委託。平成18年度の指定管理者制度導入以降も同運営体制を維持。
- ・非常勤嘱託員退職後の平成24年度以降は、指定管理者のみの運営体制となり、現在は一般財団法人ポジティブアースネイチャーズスクールを指定管理者に指定し運営。

(4) 利用料金

(単位：円)

	山の家	ロッジ	交流センター	
			全 面	半 面
18歳未満	730	520	午前 3,140	1,570
18歳以上	1,570	1,040	午後 3,980	1,990
			夜間 4,400	2,200

※ 1人1泊当たりの料金

※ テントサイトの利用やテントの貸出しは無料

(5) 利用者数

(単位：人)

	H25 (直近ピーク時)	H29	H30	R1
山の家	1,243	1,451	609	368
ロッジ	1,906	1,409	589	507
テントサイト	5,322	4,288	4,686	4,281
交流センター	3,423	1,263	2,047	1,671
合計	11,899	8,411	7,931	6,827

2 検討会議の報告書について

次のとおり。

資料3ページ「**概要版** 京都市百井青少年村の今後のあり方について（報告書）」

別紙「京都市百井青少年村の今後のあり方について（報告書）」（本編）

3 本市の対応方針について

報告書の内容を踏まえ、施設の今後のあり方について引き続き検討を進めたうえで、改めて御報告いたします。

概要版 京都市百井青少年村の今後のあり方について（報告書）

I 検討会議設置に係る経過

- 百井青少年村は、昭和47年7月に地方自治法上の「公の施設」として設置され、自然体験、野外活動の振興を通じた青少年福祉の増進を目的に、青少年をはじめとする利用者や地域住民に親しまれてきた。
- その間、指定管理者制度の導入や利用料金制を取り入れるなど、民間事業者の力も生かしながら、より良い施設運営に努めてきたが、こうした取組にもかかわらず、近隣地域での類似施設の増加や余暇活動の多様化、厳しさを増す京都市財政など、施設を取り巻く社会経済情勢が大きく変化していることに加え、設置から50年近くが経過して施設の老朽化が進行するなど、百井青少年村が抱える課題も顕在化している。
- こうしたことから、施設全体のあり方について検討、議論を深めていくため、令和2年4月に本検討会議を設置した。

II 施設や地域の現状分析

1 施設が抱える課題

(1) 利用者数の低迷

利用者数はピーク時に比べて4割以上減少（H25：11,899人→R1：6,827人）。

施設開設時に比べて、近隣地域でキャンプ場や宿泊体験事業等が増え、ソフト・ハード両面にわたって充実してきていることなどが要因。

(2) 施設の魅力向上と収益改善

利用料金制を採用しているが、収入の約9割を京都市からの委託料でまかなっている。利用料金を設定している宿泊棟が老朽化のため使用停止となっていることや、最も利用者が多いテントサイト（宿泊利用の83%）の利用が無料となっていることから、今後大きな収入の増加も見込めず、収支の均衡を図ることが困難。

収支状況（R1）

（単位：円）

収入合計			支出合計			収支差額
	委託料	利用料金		人件費	事業費等その他	
9,338,751	8,459,231	879,520	9,751,990	6,678,689	3,073,301	△413,239

(3) 施設の老朽化

老朽化に伴う損傷が激しいことから宿泊棟が使用停止となっており、トイレなどその他の各施設についても老朽化が進んでいる。

なお、宿泊棟を改修する場合、最低限必要な箇所を改修するだけでも、相当の費用が必要であること、仮に改修したとしても、湿度の高い環境などから、近い将来、同様の劣化が生じ、それに伴う改修が必要となる可能性が高い。

2 施設の持つ魅力・可能性

- 地域と共存した施設の運営を行っており、地域にとって重要な施設であること
- 自然環境や原風景などを生かした体験ができること
- 地域及び京都市域の活性化につながる施設になり得ること

3 大原百井の地域特性

あり方の検討に当たっては、全市的な視点に加えて、大原百井地域の過疎化が進む中、施設運営の中で地域の魅力を引き出すことや、地域の活性化に向けて施設を活用していく視点が必要となる。

- 【強み】
- ・ 豊かな自然環境, 眺望, 景観
 - ・ 市街地から短時間でアクセスできる地理的環境
 - ・ しっかりとした地域コミュニティ

- 【弱み】
- ・ 冬の寒さが厳しい気候
 - ・ 人口減少・過疎化,
 - ・ 険しい道路環境

III 今後の方向性

1 基本的な考え方

本施設の魅力・可能性や地域の活性化, 市街地で暮らす市民に対する山間部の魅力の発信における本施設に期待される役割を考慮すれば、財源の確保とランニングコストの課題をクリアすることを前提とした再整備を行ったうえで、**基本的には施設を存続させることが望ましい。**

一方で、**本施設が市民全体の税負担によって支えられる公設の施設であることに鑑みれば、存続のあり方については、次の3点に十分な留意が必要。**

- (1) 施設の存続に当たっては、利用者数の低迷, 施設の魅力向上と収益改善, 施設の老朽化の課題を克服していく必要があること。
- (2) また、公設を維持し、施設に対して今後も公的な財源を投入していくのであれば、(1)に加えて、公設施設であることの必要性, 利用者負担のあり方や採算性の確保, 京都市の厳しい財政状況について市民への説明責任が必要となること。
- (3) こうした状況を踏まえ、本施設が地域と共存しながら長期的に存続していくためには、少子高齢化が進む中で、青少年以外も含めた幅広い利用者に愛される施設となるよう、従来の指定管理者制度の枠にとどまらない民間事業者の参画により、ソフト・ハードの両面から施設のリニューアルを行っていくことが前提となること。

上記を踏まえ、本施設が目指すべき将来像と、これを実現するための具体的な方策の例を示すので、京都市においては、本検討会議の意見を踏まえて方針決定を行い、必要となる準備を整えたい。

2 目指すべき将来像 ～長期的な施設の存続に向けたビジョン～

3つのキーコンセプトに基づき、地域住民と共存しながら百井地域ならではのブランド力を確立し、高めていけるような施設のリニューアルを行い、大原百井地域をはじめとした京都市域全体の賑わいの創出へつなげる。

また、これを通じて山間部における施設運営のモデルケースとなることを目指す。

キー コン セプ ト	学ぶ・遊ぶ	・ 豊かな自然の中での生活体験, 遊び
	いやす	・ 都市生活から離れて過ごす時間 ・ 日本の原風景
	交わる	・ 地域コミュニティとの交流 ・ 外部からの交流人口の増加

3 具体的方策の主な例

- | | |
|---------------------|---------------------|
| (1) 類似施設との差別化(魅力創出) | 利用者などターゲットの再設定 |
| (2) 財源の確保, 施設の位置付け | 利用料金の見直しや更なる民間活力の導入 |
| (3) 利便性の向上・情報発信の充実 | 物販や決済方法の充実 |
| (4) 地域との連携 | 施設運営に関する連絡協議会等の設置 |

(参考)

検討会議の開催状況

○ 第1回

日時：令和2年6月4日（木）午後1時50分から午後4時まで

内容：現状と課題を踏まえた意見交換

○ ワークショップ

日時：令和2年6月25日（木）午後3時から午後5時

内容：百井地域の魅力、課題

百井青少年村のあり方に関するアイデア

○ 第2回

日時：令和2年7月31日（金）午前10時から午前11時45分まで

内容：意見のまとめと将来像のイメージについて

○ 第3回

日時：令和2年8月31日（月）午後1時30分から午後3時10分まで

内容：報告書骨子について

○ 第4回

日時：令和2年10月29日（木）午後2時から午後3時15分まで

内容：報告書について

委員名簿

(敬称略, ○は会長)

氏名（五十音順）	所属団体等
浅川 栄治郎	日本ボーイスカウト京都連盟 事務局長
畦崎 桂子	一般社団法人ガールスカウト京都府連盟 事務局次長
竹内 香織	公益財団法人京都市芸術文化協会 事業課長／ NPO法人京都子どもセンター 副理事長
○土井 勉	一般社団法人グローバル交流推進機構 理事長
西田 夏音	市民公募委員
山本 進	百井町自治会 会長

※ 所属団体等は、委員就任時のもの